



### 良質茎の確保に向けて“中干し・溝切り”を徹底しましょう!!

コシヒカリ生育状況(6月11日調査:生育調査地点平均値)

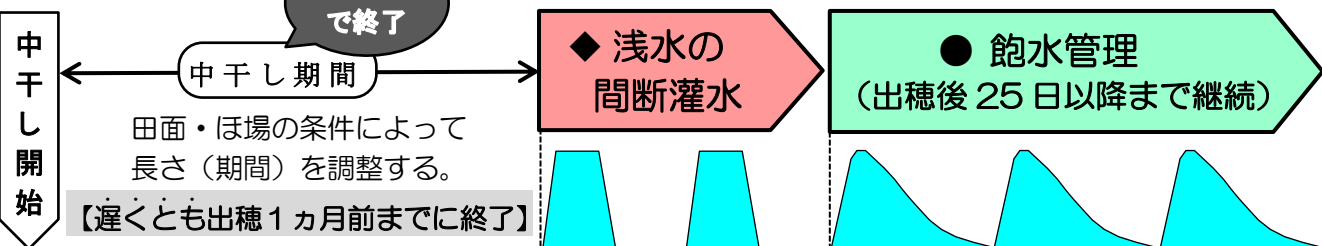
5月上旬の低温・少照等の影響で遅れていた水稻の生育は、5月下旬から6月上旬の高温・多照により、生育が大幅に回復したことから、多くのほ場で中干し適期を迎えています。

しかし、水持ちの良すぎる圃場や深水管理を継続していたほ場では“ワキ”による下葉の枯れ上がりが見られ、連休植えの圃場でも目標茎数に届いていないほ場が見受けられます。移植の早晚を問わずほ場間の生育格差(茎数)が大きい状況となっています。

地区	田植日	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(葉)	葉色(SPAD)
寺泊	5/7	30	246	6.9	39.9
和島	5/5	34	272	7.3	41.1
出雲崎	5/5	33	227	7.4	40.4
与板	5/11	31	321	7.2	39.7
三島	5/9	30	264	6.3	38.8
こしじ	5/13	30	252	6.8	38.1
平均	5/8	31	260	7.0	39.6
指標値	5/10	30	280	7.0	38.0
草丈:並		茎数:やや少ない			
葉数:並		葉色:やや濃い			

#### 1. 中干し以降の水管理

##### (1) 水管理の手順



##### (2) 水管理のイメージ

作業内容	水管理の概要	ポイント
① 入水	田面の高い部分が隠れる程度まで入水します。	深水にし過ぎない
② 湛水	根の機能低下防止のため、湛水期間は“1~2日程度”とします。	長期間湛水しない
③ 落水	入水完了から1~2日程度経過したら水尻をはらい落水し、田面が乾ききる(田面が白くなる)前に「①入水」を開始します。	乾かし過ぎない
①~③の水管理を繰り返し行い、徐々に「飽水管理」に移行します。 田面が乾き過ぎる前に「入水」しましょう!		

小ヒビ中干しを徹底して、根の健全化に努めましょう!

飽水管理へ移行します

①'入水

水田内の溝や足跡から水がなくなる前に入水を開始し、田面の高い部分が隠れる程度まで入水します。

深水にし過ぎない

②'自然落水

水尻は止水、自然減水で田面に水がなくなり、溝や足跡の底の水がなくなる前に「①'入水」を開始します。

乾かし過ぎない

①'~②'の水管理を出穂後25日以降まで繰り返し行い、根の健全化と地耐力の維持に努めます。



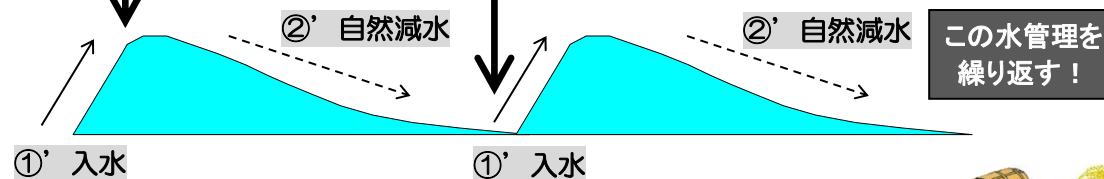
田面の高い部分が隠れる程度まで入水



自然減水し、足跡や溝に水がなくなる前に再び入水



この状態は乾かし過ぎです!



この水管理を繰り返す!

幼穂形成期以降、新根はほとんど発生せず、健全な根の減少(老化)が始まります。中干し後は飽水管理を行い、根の老化や断根を防ぎましょう!

#### 2. 中間追肥

ケイ酸の施用は、高温条件下での登熟に効果があります。ケイ酸質肥料の施用で“異常気象に強い米づくり”をしよう!

肥料区分	資材名	施肥量	使用時期
ケイ酸質肥料	スーパーシリカプレミアム	20~40 kg/10a	出穂前30~40日頃
	けい酸加里プレミア34	20~40 kg/10a	出穂前40日頃
加里肥料	塩化加里60%(粒状)	7~10 kg/10a	出穂前40日頃
	マグコーブ	20 kg/10a	出穂前30~40日頃

ケイ酸の施用(中間追肥)は、①根張りの促進による倒伏軽減、②登熟向上による乳白粒の発生軽減と食味向上、③いもち病・ごま葉枯病への抵抗性の向上、また、近年のような高温登熟条件下では、根の活性を高めることにより、養水分の吸収を活発にさせ、④葉の蒸散が盛んになることで稲体温度を下げる効果が期待でき、高品質・良食味米の生産につながります。

#### 3. カメムシ対策

全地域一斉による農道・畦畔、雑種地等の草刈り・除草の徹底により、カメムシの発生密度を低下させましょう!

##### 第2弾

### 第1回 一斉草刈りウィーク

6月10日(日)~16日(土)実施中!

##### 重点対象雑草

メヒシバ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、ナギナタガヤ

ポイント 雑草種子を結実させない!

斑点米カメムシの発生を防止するため、畦畔を含めた水田内外の除草を徹底しよう!

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~

次回稲作情報: 6月下旬「生育状況、穂肥、病害防除」(予定)